

編集後記

「創刊号発刊にあたって」

この度、名古屋学院大学論集「医学・健康科学・スポーツ科学編」を刊行する運びとなり、ここに記念すべき創刊号を発刊することができました。これも偏に総合研究所の歴代委員、職員のご理解と関連領域の教員各位のご協力の賜物と感謝いたします。

昨今我が国の大学では教員の教育に費やす時間が増大し、それに伴って研究に当てる時間が減少している傾向にあります。大学教員の役割として教育と研究は重要な柱であり、本学でも多くの教員が時間をやりくりしながら、それぞれの研究に取り組み、その成果を公表しています。研究成果は多くの場合、論文という形で公表されます。研究成果はできるだけ多くの研究者の目に触れる国際誌や国内誌への掲載を目指す、そういう姿勢でいるべきですが、すべての研究がそのような雑誌に掲載されるわけでもないので、大学が紀要を刊行することは大学教員の研究成果の公表の機会を広げるため、あるいは学内の若い研究者や研究に興味をもつ学生を育てるために、意義深いものであり、本学の論集もこのような役割を果たしているものと言えます。

自然科学、就中、生命科学の領域の研究は、その領域の他の研究者の目から見て、その内容に新しい知見や理論などが含まれ公表する価値があると認められたものが、評価され論文として掲載されており、そのような審査を経ないものは評価の対象にはなりません。一流の国際誌や国内誌はもちろん、大学の紀要であっても審査を受けたもののみが論文として認められ、それが業績にカウントされます。しかしながら本学の論集ではそのようなシステムがとられておらず、書かれたものが何のフィルターを通ることなく論文として印刷され公表されるという現状があります。もちろん研究領域によっては査読制度がそぐわない領域もあると思います。それぞれ研究領域の流儀もあるでしょう。他の領域のやり方に言及するつもりはありませんが、文章や論文構成など、大学が発行する学術誌として外に出しても恥ずかしくない体裁を整えることは、学問の府である大学として当然のことであり、名古屋学院大学としても望ましいものと思います。公表にふさわしい内容があって論文としての体裁が整ったものを採択することにより、本論集に掲載した論文がそれぞれの業績として学外からも認められるようにする。学内におけるこの領域の研究者数が僅かという厳しい環境の中ではありますが、このことは長く教育と研究の場に身を置いて来た者の務めでもあると考え、多くの方々の支持を得て査読システムに基づく論集「医学・健康科学・スポーツ科学」編を刊行するに至りました。

医学・健康科学・スポーツ科学編は、この領域の研究の原著論文をはじめ、症例報告、総説などを掲載する学術誌ですが、そのほかにも長期、中期、短期の研修報告や学会記、書評をはじめ、教員の皆さんの様々な寄稿を掲載して行きたいと考えています。どうぞ奮って投稿、寄稿くださるようお願い致します。

医学・健康科学・スポーツ科学編

編集委員長 藤 森 修